

名前も知らないあなたへ

人間って、こんなに温かいものだったんだ。そう思ったのは今年の五月、あなたに助けてもらった時のことです。そう、私はあの時、駅で貧血で倒れていた者です。私がとんでもない勢いでベンチに倒れ込んだとき、周りが騒然とする中、あなたは「大丈夫ですか？私の膝に寝てください」と言って即座に駆け寄ってくれました。意識が朦朧としている時に聞こえてきた女性の声と、視界に入った制服姿で、「JKだ」と思いました。私も女子高生だけど、女子高生って人助けとは程遠いという偏見もあって、意外さに驚きました。あなたの膝枕は無機質で冷たいベンチと違って、人の温かみを感じて安心できました。

私は今まで、電車の中で具合が悪くなった人を見るとその場から離れたり、急病人救護で電車が停まればイライラしていました。世の中、そのような人の方が多いと思うのです。私が倒れた時も、私の隣の隣くらいに座っていたおじさんは、「うわあ」と言って幾つか席をずらしたただけでした。でもあなたが側に来てくれたおかげで周りもことの大きさに気づいたのか、別の人が駅員さんと呼んでくれたり、「大丈夫だよー、もうすぐ駅員さんが来るからねー」と優しく声をかけてくれたりするおじさんも現われました。

この出来事をきっかけに、私も大きく変わりました。あの時の私のように、具合が悪そうな様子の人には声をかけ、必要そうだったら駅員さんと呼ぶようにしています。普段から健康な人は「声をかけたら迷惑じゃないかな、まあ誰かが助けてくれるでしょ」と素通りしてしまう人が多いと思うけれど、身をもって学んだ私から、そんなことないよ、あなたの救いの手を必要としているんだよって伝えて行けたらいいなと思っています。そして、私が前々から抱いていた「困っている人を助けてたい」という思いがさらに強くなりました。あの時の私のように、困っている人や弱い人ほど、声をあげるのは難しいものです。だからこそ、私が一番早く気づいて、あなたみたいにそっと寄り添える人になりたいのです。そうしたら、あの時の周りの人みたいに自分のできることを見つけて、支援の輪が広がるのではないかと考えています。

その後私は、駅員室まで運ばれました。あなたに振り返って、「ありがとうございました」と言うのが精一杯で、正直あなたの顔は覚えていません。ごめんなさい。でも、もしかしたらあの駅は私の最寄り駅だから、あなたとすれ違っているかもしれません。元気になって駅員室から出ると、駅はすっかりいつも通りになっていました。もちろんあなたの姿もなかった。「あの時にLINEを聞いていれば」などと思ったりもしたけれど、今更後悔しても仕方ないので、ここで改めてお礼を言います。あの時は、名前の知らない私を助けてくれてありがとう。私はめったに貧血にならないからすごく不安になったけれど、あなたの温かみに触れて、ほんと安心したのを忘れません。あなたの見返りを求めず人助けをする姿は、本当に尊敬します。私もあなたみたいになりたいです。今度あなたが困った時には、私が助けに行きます。それでは、また。